

# 特集

## 《1》ソーシャル・キャピタル

### 「信頼の絆」で解く現代経済・社会の諸課題

#### 1 ソーシャル・キャピタルの構成要素は信頼・規範・ネットワーク

「つながり」を表現する概念として使われる「ソーシャル・キャピタル」を、日本語では「社会関係資本」と訳しています。

日本で「社会資本」と言いますと、道路や橋、公園などのソーシャル・インフラストラクチャーを指す場合が多いので、誤解を避けるためにも社会関係資本という言葉が使われています。

サン＝テグジュペリの『星の王子様』の中で、キツネが王子様に、王子と自分はまだ「絆」を結んでいないから、王子様にとって自分はほかのキツネと区別がつかない、だから一緒に遊べない、ということとを言う。そしてキツネは「いちばんたいせつなことは、目に見えない」と言うわけですが、この「目に見えない」ものを扱うのがソーシャル・キャピタルの理論です。

ピタルの理論です。

ソーシャル・キャピタルは、非常に幅広い内容を持つ言葉として使われていますが、多くの研究者は「信頼・規範・ネットワーク」の3つを大きな要素として掲げています。

「信頼」という概念は、実はそれだけで大きな研究分野です。例えば、社会全般に対する信頼である「一般的信頼」と仲間内の信頼である「特定化信頼」に区分することができ、経済学者や社会学者は「好意を返してくれる確率としての信頼」という捉え方をしたりする。

「規範」については、「情けは人のためならず」、「お互いさま」、「持ちつ持たれつ」などの言葉が表す「互酬性の規範」を指したり、もう少し大きい捉え方として、社会共通の価値観としての社会規範を指す場合もあります。「ネットワーク」は、人や組織の間の「絆」とも言えますが、

「結束型（ボンディング）」と橋渡し型（ブリッジング）」とに分けることができます。

結束型は、同じバックグラウンドを持つ人同士のネットワークで、地縁組織、例えば消防団や自治会などがこれに当たります。地方自治体は結束型ネットワークに依存するケースが多いと思います。橋渡し型は、バックグラウンドは違うけれども特定の目的を持っていることでつながっているネットワークです。NPOや趣味のクラブなどがこれに含まれます。

ソーシャル・キャピタル、すなわち「社会における信頼・規範・ネットワーク」は、公共財、クラブ財、私的財の3つに分類できます（表1）。

#### 2 公共財、クラブ財、私的財という類型

で、特定の個人ではなく、マクロレベルの、社会の構成員全体への信頼・規範のことです。

一方、私的財といった場合、ミクロレベルの、個人間ないし組織間のネットワークを指します。ビジネススクールの先生方がお話をされるような、ビジネスがうまくいくための人間関係の構築や、いわゆる「コネ」というのものは、私的財としてのソーシャル・キャピタルと言えます。その中間に、クラブ財としてのソーシャル・キャピタルというものがありますが、これは自治会や同窓会など、特定のグループ内における信頼や、互酬性を伴う規範のことです。

ソーシャル・キャピタルを議論する時には、どのレベルの話をしているかを意識する必要があります。ネットワークに焦点を当てる研究者は、ソーシャル・キャピタルを個人財として議論し、規範や信頼に重きを置く研究者は公共

表1 ソーシャル・キャピタルの類型

公共財としてのソーシャル・キャピタル	社会全般における信頼・規範
クラブ財としてのソーシャル・キャピタル	ある特定のグループ内における信頼・規範（含む互酬性）
私的財としてのソーシャル・キャピタル	個人間ないしは組織間のネットワーク



プロフィール  
稲葉 陽二  
日本大学法学部教授

財やクラブ財として扱う傾向があります。

### 3 ソーシャル・キャピタルの計測方法

ソーシャル・キャピタルの計測方法はある程度確立されています。例えば、公共財としてのソーシャル・キャピタルについては、「世界価値観調査」など海外の調査で、「たいていの人は信頼できると思いますか、それとも、用心するに越したことはないと思いますか？」という問いが含まれる場合が多くなっています。

クラブ財としての信頼・規範については、隣近所への信頼、家族への信頼、親戚への信頼、職場の同僚への信頼、友人・知人への信頼などが、どの調査でも聞かれるようになっていきます。日本では2003年に内閣府によってこのような内容の調査が初めて行われました。その後2008年に私が日本総研と実施したものがあります(注1)、2013年にも私自身、本格的な調査を予定しています。

私的財としてのソーシャル・キャピタルについては、個人の間関係性を調べるために、「個人的な問題を誰に相談するか」という問いで名前を挙げ

てもらおう「名前想起法」や、「いざという時に助けてくれる人があるか」を聞くResource Generatorなどの調査法があります。

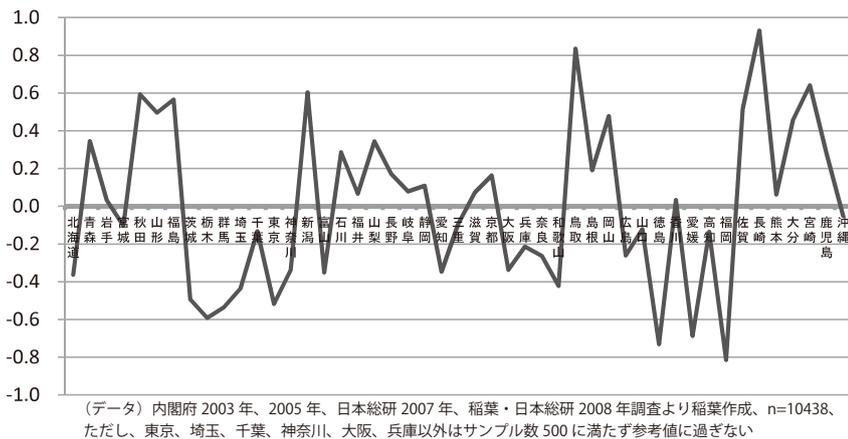
### 4 都道府県別ソーシャル・キャピタル

私自身も関わった内閣府や日本総研による調査の結果を紹介します。質問項目で、「信頼指数」として、一般的信頼、近所の人など対象を特定した信頼などを聞いています。「つきあい・社会的交流指数」、つまりネットワークについて、近所づきあいの程度、友人・知人、親戚とのつきあいの頻度や、スポーツ・趣味・娯楽活動への参加状況。そしてこれもネットワークに関するものですが、「社会参加指数」として、地縁的活動やボランティアなどの社会参加の状況を聞いています。

統合指数を出して都道府県別に見ると、大都市圏は見事に低くなっています(図1)。神奈川県も残念ですが低い。ただし、東京、埼玉、千葉、神奈川県、大阪、兵庫以外はサンプル数が少ないので参考値です。

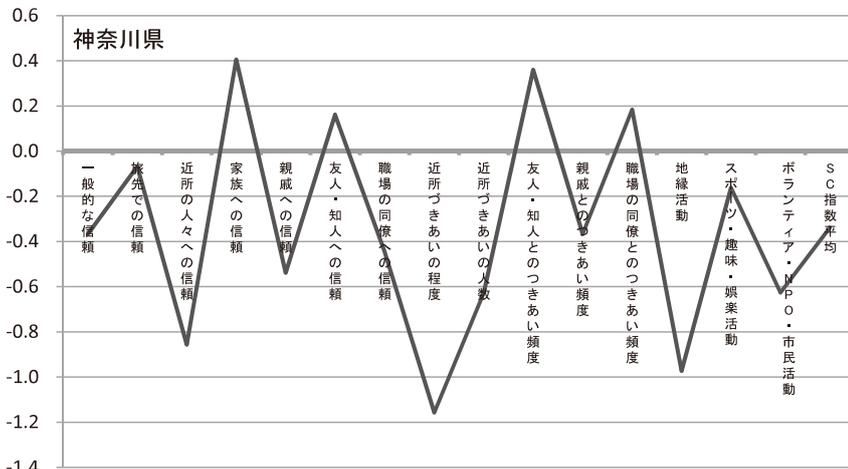
神奈川県について、どうい

図1 都道府県別ソーシャル・キャピタル統合指数 (標準偏差値 全国平均=0)



(データ) 内閣府 2003年、2005年、日本総研 2007年、稲葉・日本総研 2008年調査より稲葉作成、n=10438、ただし、東京、埼玉、千葉、神奈川県、大阪、兵庫以外はサンプル数 500 に満たず参考値に過ぎない

図2 都道府県別ソーシャル・キャピタル統合指数 神奈川県と全国平均の比較 (全国平均=0)



(データ) 内閣府 2003年、2005年、日本総研 2007年、稲葉・日本総研 2008年調査より稲葉作成、N=949

2)、信頼指数の関係では、「一般的な信頼」が低く、「近所の人々への信頼」は大変低い。一方で、「家族への信頼」や「友人・知人への信頼」は全国平均と比べて高い。「親戚への信頼」と「職場の同僚への信頼」は低くなっている。つきあい・社会的交流については、「近所づきあいの程度」と「近所づきあいの人数」が大変低い。「友人・知人とのつきあい頻度」と「職場の同僚とのつきあい頻度」は高い。社会参加については、「地縁活動」は大変低く、「スポーツ・趣味・娯楽活動」はまあまあですが、「ボランティア・NPO・市民活動」は低い。

一つ言えるのは、近所との関係は低調で、友人・知人に関係する項目は、大都市圏共通して、平均より高いです。匿名性が都市の魅力だとすれば、匿名性が高ければ近所の人と疎遠になるのは当たり前

(注1) 社会関係資本に関する調査は、WEB調査として内閣府国民生活局による2003年調査、内閣府経済社会総合研究所による2005年調査、株式会社日本総合研究所による2007年調査、稲葉・日本総研による2008年調査がある。また、郵送法調査としては、2003年内閣府国民生活局調査、2010年稲葉調査がある。

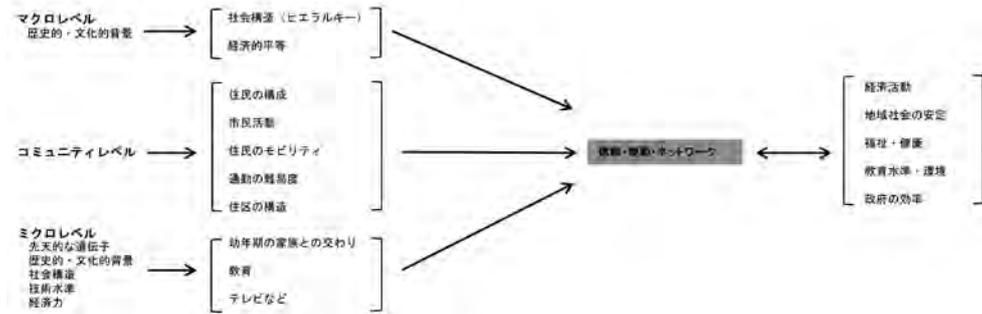
です。逆に言うと、匿名性を維持しつつ、何あった場合にはすぐ対応できる体制を整えておくことが必要だということや、地縁活動とかボランティア活動はまだまだ改善の余地があるということが言えるかもしれません。

## 5 ソーシャル・キャピタルをめぐるとる因果関係

ソーシャル・キャピタルに關係する要素間が、どんな因果關係になっているのかをまとめると、(図3) のようになります。

まずマクロレベルを考えると、歴史的・文化的背景というものが社会構造や経済的平等に対し大きな影響を与えています。コミュニティ・レベルでは、住民の構成や市民活動、住民のモビリティ、つまり居住年数や、通勤の難易度、住区の構造などが關係してきます。例えば、アメリカにはゲートッドコミュニティという、宅地の入口に門があり門番がいて、人が自由に出入りできないようにしている閉鎖的な住宅地がたくさんありますが、こうした住区構造は、ソーシャル・キャピタルにとっては好ましくありません。また、ミクロレベル

図3 ソーシャル・キャピタルをめぐるとる因果關係に関するハルパーンの仮説



(出所) ハルパーン (2005) に基づき作成

では、遺伝、歴史的・文化的背景、社会構造とか技術水準、経済力などが、幼年期の家族との交わり、教育に影響を与えている。そして、これらの要素全てが信頼・規範・ネットワークの形成に寄与・關係してきます。こうして形成されたソーシャル・キャピタルは、経済

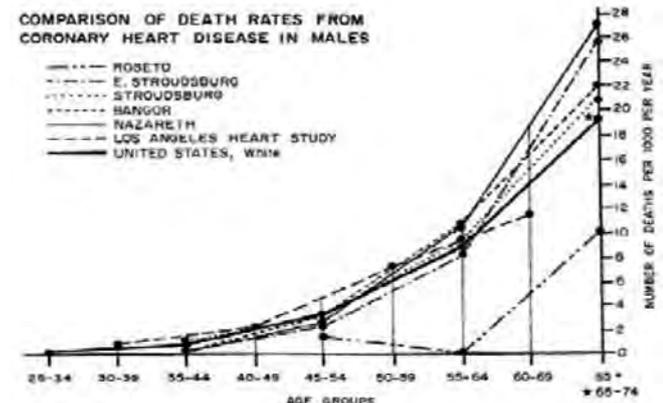
## 6 ソーシャル・キャピタルと健康

活動、防犯など地域社会の安定、福祉・健康、教育水準・環境、政府の効率などに影響を与えることになる。これらが言わば「ソーシャル・キャピタルの効果」ということとなります。また、信頼・規範・ネットワークがまとまったものはまさにコミュニティそのものであり、ソーシャル・キャピタル自体が大きな価値を持つているという議論をする研究者もいます。

ソーシャル・キャピタルのさまざまな効果のうち、特に「健康」については、山のよう研究があります。フランスの社会学者デュルケームが、孤立している人ほど自殺しやすいということを書いた『自殺論』を19世紀末に出版しましたが、今では社会疫学(注2)という新しい学問分野ができました。例えば、結婚している人のほうが幸福かつ健康であり、特に男性の場合、配偶者の死亡直後の本人の死亡率も高いという研究がありますし、心の病についても人とのつながりが少ないこととの相関が明らかにされています。有名なロゼトの研究について

て詳しく紹介します。ロゼトというのは、南イタリアの山あいの村で、1880年に、その村の人たち2千人がアメリカのペンシルヴェニアに移民して同名のまちを作りしました。この産業は主に石切りなのですが、このロゼトでは、心臓疾患による死亡率が大変低かった(図4)。住民千人当たりの心臓疾患による死亡率を見ると、周辺の町や全国平均を大幅に下回っていて、「ロゼトの奇跡」とまで呼ばれていました。研究者が長年にわたってコミュニティに入り、調査した結果、濃密な人間關係があり、お互いの助け合いに対する信頼が心の安寧を与えていてストレスが少ないこと、裕福な人が富を誇示することがなく一体感があることなどが原因であるという結論に達しました。ところが1970年代になって、一体感や平等を重んじる価値観が消えてくると、死亡率は上昇し、平均値と変わらなくなりました。もう一つ、地域コミュニティのソ

図4 ロゼト (ROSETO) は心臓疾患が少ない



(出所) 「The Roseto Story」 22頁

(注2) 社会疫学 (Social Epidemiology) 健康の社会的決定因子をマクロレベルで研究する学問分野。

表2 シカゴ熱波の死亡率等

	北 ロンデル	南 ロンデル	シカゴ
高齢者の 貧困率 (%)	26	22	16
高齢者の 1人暮らし率 (%)	24	31	32
熱波による 死亡率 (10万人当たり)	40	4	7

(出所) Eric Klinenberg 『Heat Wave A Social Autopsy of Disaster in Chicago』 University of Chicago Press

シヤル・キャピタルが住民の健康に影響を与えた例として、1995年の熱波の際のシカゴを紹介し、北ロンデルと南ロンデルという2つの地区は隣接していて、ともにシカゴ全体と比べて高齢者の貧困者数が高い地域ですが、北ロンデルの方は車で走っても危険を感じるような、地域コミュニティが荒れ果てている地域でした。熱波の時の人口10万人当たりの死者数を見てみると、北ロンデルが40人なのに対して、南ロンデルが4人と、わずか10分の1でした(表2)。南ロンデルでは、「あそこにお年寄りがいるはずだから、助けに行つてあげないといけない」、「もっと涼しいところに連れてって

行つてあげないといけない」と助け合ったのに対して、北ロンデルでは放つておいた。その違いが死亡者数の差を生んだと言われています。また、私自身、長野県須坂市で調査をしています。ソーシヤル・キャピタルに関連する要素として、須坂市はまず、現在全国で実施している保健補導員制度の発祥の地です。戦時中の一保健師の活動が広がり、1958年に制度化されましたが、任期は2年で毎期280名で実施しています。人口5万人の市ですが、保健補導員経験者は6,000人を超えています。保健補導員は健康について学び、家族や近隣への普及活動に取り組みます。また、「助け合い起こし」によるまちづくりという運動が行われていて、地域で孤立しかけている人などを含めた住民同士の人間関係を地図に表す「助け合いマップ」を市内の全地区で作成したり、毎年開催される「助け合い起こしによるまちづくり推進大会」で、勇気を出して助けを求めた人に「助けられ大賞」を授与したりしています。街並み保存のNPO活動もとても盛んで、20年にわたつて存続しています。

このように、住民の強いつながりを示す取組がいくつもある須坂市は、ほとんどの項目で全国調査を上回っています(表3)。特に、近所づきあいの程度で、「何かあれば協力する、ないしは立ち話程度する」(表3の「協力・立話」)程度のつきあいがあるという人が7割を超えているなど、近所の人々との相互の信頼が厚いことが読み取れます。そして、同時に調査している「抑うつ度」は、「他人への信頼」「近所づきあいの程度と頻度」「友人・親戚・同僚とのつきあい頻度」など、ソーシヤル・キャピタルの構成要素すべてと相関関係が見られ、抑うつ度が低い人ほど一般的信頼が高く、社会参加・社会交流を活発に行っています。

### 7 都市のソーシヤル・キャピタルを高める

それでは都市のソーシヤル・キャピタルを高めるために、何をすべきか。コミュニティ内の格差を是正する所得再分配策や教育の充実等が考えられます。あるいはまちを安全に、そしてきれいに、歩いて楽しいところを作る。また、匿名性の高い大都市でも、例えば防災や集合住宅の管理組合の活動など、どうしても

一定の付き合い、つながりが求められるテーマはあるので、本場に必要なことへの協力を求める中でコミュニティ内の信頼やネットワークを育てていくという方法もあります。とにかくコミュニティで孤立した人をつくらぬようにあらゆる努力をすることです。ソーシヤル・キャピタルは特効薬ではありませんし、つながりを持続させることも簡単ではないですが、ソーシヤル・キャピタルを高める政策を実施すれば、さまざまな分野で複合的な効果が必ず得られるはず(本稿は平成24年11月20日に横浜市研修センターで行われた講演を基に編集部が構成しました。)

表3 須坂市調査と全国調査との比較

設問	類型	一般的な信頼		相互信頼・相互扶助					つきあい			社会参加				
		一般的な信頼	旅先での信頼	近所の人々への信頼	家族への信頼	親戚への信頼	友人・知人への信頼	職場の同僚への信頼	近所づきあいの程度	近所づきあいの人数	友人・知人とのつきあい頻度	親戚とのつきあい頻度	職場の同僚とのつきあい頻度	地縁活動	スポーツ・趣味・娯楽活動	ボランティア・NPO・市民活動
		ほとんど信頼できる	ほとんど信頼できる	ほとんど信頼できる	頼りになる	頼りになる	頼りになる	頼りになる	協力・立話	かなり多くと面識	日常的・頻繁	日常的・頻繁	日常的・頻繁	参加している	参加している	参加している
須坂市(2008年)	601	33.8%	22.0%	48.4%	88.7%	71.9%	68.7%	31.9%	72.7%	72.4%	54.1%	39.6%	20.5%	53.2%	46.9%	27.3%
全国(2008年)	3,000	31.3%	25.5%	31.0%	83.0%	54.4%	64.9%	29.7%	47.1%	53.3%	43.2%	22.6%	20.2%	39.7%	23.7%	13.0%
全国(2007年)	3,000	-	-	-	-	-	-	-	42.3%	45.3%	40.5%	22.5%	22.0%	36.3%	22.4%	9.0%
全国(2005年)	2,977	16.0%	-	25.1%	84.8%	50.0%	68.6%	-	37.0%	48.0%	40.7%	21.5%	-	20.7%	24.4%	12.5%
全国(2003年)	2,000	22.6%	17.2%	25.9%	80.6%	49.5%	65.8%	29.2%	44.2%	48.8%	46.0%	19.6%	17.7%	14.8%	30.4%	8.9%

(出所) 内閣府(2003、2005)、日本総研(2007)、稲葉・日本総研(2008)、稲葉2008年須坂市調査